

会議録審議会等

審議会等の名称	平成 28 年度 第 4 回環境基本計画策定部会
開催日時	平成 29 年 3 月 24 日 (金) 10:00~12:00
開催場所	清掃工場 1 階会議室
公開・部分公開の区分	公開
出席者	浮田委員 (部会長)、今村委員、前田委員 敬称省略・順不同 (3 人)
欠席者	豊田委員、福代委員、坂本委員
事務局	(環 境 部) : 榎本参事 (環境政策課長) (環境政策課) : 福谷主幹、竹内主幹、野村主査、山村 (教育総務課) : 真砂課長 (学校教育課) : 塩見主幹 (7 人)
議題	・ 総合推進・分野横断的なもの
	<p>策定部会の開催に先立ち、事務局あいさつの後、部会長の進行により議事に入った。</p> <p>【部会長】 それでは、最初にお諮りさせていただきます。当部会は原則として公開し、議事録についても公表することとしてよろしいでしょうか。</p> <p>(「異議なし」と呼ぶ者あり)</p> <p>【部会長】 では、そのようにさせていただきます。本日の議論は、分野横断的な取組 (総合推進) について協議したいと思います。2 時間程度、必要であれば途中休憩を入れながら進めていきたいと思います。それではまず、事務局から本日の議題について説明をお願いいたします。</p> <p>【事務局】 説明</p> <p>【部会長】 それでは資料 4 に基づいて議論したいと思います。環境教育・環境学習によ</p>

る理解と行動の促進、人材育成が一つです。それから2番目が協働による環境保全活動の促進、3番目、環境にやさしい社会経済のしくみづくり、4番目が他都市との連携及び国際的な取組の推進。では、まず、環境教育・環境学習による理解と行動の促進、人材育成です。家庭教育、学校教育、それから地域などの社会教育的なこと、いろいろな面があるかと思えますけれども何か意見がございますか。昨年、私が代表をしている宇部市のNPOで環境省の協働取組加速化事業というものを受けまして、環境教育・環境学習の体制づくりを、民間の団体が働きかけて考えようという仕事をしてまいりましたので、特にこの方面については関心を持っているのですが、住んでいる所が違うので山口市の状況というのはよく知らないのですが、情報の共有をしていただければと思います。教育委員会の方で、学校教育と社会教育、環境教育に関してどのような方針で行われているのか。それから近頃はESDというのもございますよね。それからコミュニティスクールも検討されていて、よく取り組まれております。その辺の状況について、簡単に結構ですので、ご紹介していただければありがたいです。

【教育委員会】

教育総務課の真砂でございます。今、教育総務課の方で学校給食を所管しております。その関係のお話いたします。資料1で地産地消という取り組みが掲げてあります。学校給食における地場産食材の推進に取り組んでおり、特に学校給食において環境保全からも若干関係してくる部分と言え、できるだけ市内産の食材を使って学校給食を作っていこうという取り組みを進めております。これは特に県の方も力を入れている取り組みで、1学期、2学期、3学期のある1週間の献立の中で、市内産や県内産の食材をどの程度取り入れているかの目標数値を決めており、それに向かって学校給食の献立等を組み立てる取り組みを行っております。近年、60%前後で推移しており、県内の食材を60%入れた献立を作っていく取り組みをしている事例がございます。

【部会長】

他の自治体もそういう感じで取り組みをされているのですか。

【教育委員会】

そうです。県内で言えば、全市町のサンプリング調査を県の方が取りまとめて、毎年公表しております。

【部会長】

確か100%の所もありますね。山口県自体が割と高めということも聞いたことがある気がします。

【教育委員会】

実際、近年の取り組みが注目されまして、ここ5年の間に急速に各市町とも取り組みを進めておりまして、全体としても60%前後で進んでいるということです。

【部会長】

今のは、資料4の3番目に関連する部分だと思います。前後するけれど、社会経済の仕組みづくりという山口市のレベルでどこまでできるのか、そういう意味からすると学校給食の自給率はもう少し高い目標でないかね。

【部会長】

供給側としてはこれでいいと思いますが、これを生徒さんに伝える機会というのは現場の方でどの程度設けられているのですか。

【教育委員会】

食育に関しては、学校栄養士あるいは給食担当の教諭がついており、その者が授業時間を使って各学校とも、年1回以上の指導をするようにとの目標を事務事業計画等に掲げています。

【部会長】

学校教育、社会教育もご存じであれば、その辺も含めて紹介していただけませんか。

【教育委員会】

学校教育課です。小学校4年生の時に社会見学の時間を設けており、その際に環境学習ということで、リサイクルプラザ、清掃工場を見学させていただいて、環境意識の啓発をしております。また、副読本を配付して意識の啓発を行っています。教職員についても、研修等で指導ができるよう体制をとっています。

【部会長】

そうですね、職員の教育というのは非常に重要だと思いますが。

【教育委員会】

あとは学校の中で、全校ではないですけども、ホテルを育てる学習であったり、環境を意識した学習を取り入れている学校も見受けられます。

【部会長】

環境概要の最後の方に、各小学校、中学校も詳しく情報を載せていただいていますよね。私は、学校教育で等しく全員に環境学習をしたり、自然や命を大事にする、そういうことを教えることはすごく大事だと思っています。全生徒が受けられるような学習機会、あるいは体験学習、それは何回ぐらいあるのですか。今お聞きしたのはリサイクルプラザや清掃工場の見学でした。宇部市もそれはやっています。それからアクトビレッジというのもあり、水源地の小野湖にも4年生ぐらいが必ず行きます。リサイクルプラザは5年生です。最近、常盤公園にも行っています。バスを出さないといけないので、そうそう機会を増やすわけにはいかないのですが、すごく大事な内容で充実してもらうように働きかけをしています。それからすると、各学校の個々の取り組みのほか、非常に多様な取り組みがありますね、授業の中とか。全体では、ここの見学しかありませんか。生徒全体が自然体験をする、例えば、榎野川の上流から下流までをバスで観察して、河口も見せて、実際に水に触れるというようなことが大事だと思います。

【教育委員会】

例えば、今おっしゃいました榎野川での体験も移動手段等のこともございますので、なかなか市内の全学校で同じ体験をとというのは難しいと思います。それができない部分について、各学校で花の栽培などいろいろな環境に対する取り組みをできる範囲でさせていただいております。当然、地域の中に榎野川があると、自然豊かな所で体験活動ができる学校は積極的に取り組んでいるとは思っています。

【部会長】

バス代が要るので、宇部市の場合は、水道水源基金というのを1トン当たり1円積み立てています。それを水源の植樹や、アクトビレッジおのに行くバス代に使っています。今の森・川・海の取り組みの関連ということで進めてもらうことも1つの方法かと思っています。1立米1円でも十分だろうと思います。払う方は全然意識しないから、水道局の方で努力していただければいい。そういうことを全体的に検討していただければありがたいと思います。宇部の場合、常盤公園はちょっと特殊ですが、もう1つぐらいあってもいいのではないかと思います。社会教育としては、コミュニティスクール、難しいですね。学校運営協議会が設けられていると思いますが、大体全校にあるのですか。

【教育委員会】

そうですね。

【部会長】

実質的にどのような機能を果たしているかは、これからの問題だと思います。地域の人々がどう学校に入って適切に支えられるかが非常に重要なので、入っていく人の相互学習、相互研修も必要だし、先生の研修も必要です。これは本来の教育委員会の業務ですけれども、どんな感じでやられていますか。全教員というわけにはいかないでしょう。

【教育委員会】

全教員というのは難しいと思います。順次、職員、先生に対する研修も当然しなければいけない。コミュニティスクールも最近、全校に広めている学校、基盤ができたばかりの学校とで地域差があります。取り組みについても積極的に地域の環境を生かした活動をされている所もありますし、そうでない所もありますので、それを今後進めていくという形で、コンダクター等を通じて模索しているところです。

【部会長】

先生方も忙しくて手一杯だから、学校を開いて地域の人々が来られるとしんどい、初めは特にそうだと思いますけれども、そこをうまく。

【事務局】

補足させていただくと、私ども環境部と学校教育の現場とが一緒になって作っている副読本「あいらぶ山口」というのがあります。その編集をしていただくのに、学校から7、8人の先生たちと学校教育の主事についていただき、編集をお互いでやっています。そのグループの方たちは、美術や算数などいろいろな研究会がある中の環境の研究会だとお聞きしています。白石小学校の歴代の校長先生がその代表をお務めで、エコリーダー校になっており、連絡をとりながら私どもはこれを作っています。県の環境の全体会議にも代表として出席されていて、県全体の取り組みにも山口市の小学校の代表として参加されています。

【事務局】

事前に学校の教科の中で副読本を使い発見から振り返りまでがあり、学習を行った上で現地の見学をします。ごみの工場を見て「すごい」というだけではなく、自分たちの暮らしを見直すような形、郷土愛を育むというものになっていて、とてもいいものだと思います。

【部会長】

それは学校の中で具体的にどういう使われ方をしているのですか。学校の生

徒はそれを見ながら勉強しているわけですか。

【事務局】

事前に学習して、自分の家のどこでゴミが出るかを学習したり、どこに捨てるかといった分別、一人がどのくらいゴミを出している等です。

【部会長】

それを生徒は何年間持つのですか。

【事務局】

4年生の教科です。

【部会長】

4年生が1年間、それで学ぶのですね。何時間ぐらいですか。総合学習ですか。

【事務局】

済みません、そこまでは把握しておりません。また、希望する学校には私どもの清掃事務所がパッカー車を持っていき、車を見ながら分別クイズをするという学習があります。それから実際に工場を見に来られて、そして振り返りをする事になっています。少なくとも2、3時間から4時間の教科になろうかと思えます。

【部会長】

どのように使い、学習しているのかが書いてないとわからないですね。個々の学校のプログラムを見ても様々で、いろいろなことをやってるなというだけで、それ以上はわかりませんね。

【部会長】

学校教育で市としてコントロールできない、高校教育と大学教育があると思います。社会人は出前講座ということでお茶を濁している感じがしないでもないですけども、高校教育と大学教育をどうするかは市がなかなか口を出せません。この現在の状況についての情報提供をお願いしても出てこない気がします。ましてや大学も全然出さないのではないかと思います。小学生、中学生できちんと学んできたものが高校教育、大学教育で崩されることになるのがとても残念な気がしますので、情報だけでも集められるようなシステムが何かできませんかね。

【部会長】

私は、トータルなシステムを考える中で、今の幼稚園、小学校、中学校、高校、大学があります。外から教育をするという部分は下の方が大きいです。社会貢献というのは逆に学校が社会に貢献するという。小学校に地域の人が入って、地域の人が元気になるという意味では貢献しているわけですけども。だから、高校、大学については学生たちがどう貢献してくれるかという見方が主体でいいと思います。どうしても高校になると県立になるし、大学は国立や県立でいろいろなところから来るわけだから、そこまで市が責任を持つことはないと思います。

【事務局】

分別の関連については、今、山大と県立大には資源循環推進課で出前講座をやっています。学生の分別が非常によくはないということです。

【部会長】

高校だと講座というか、オリエンテーションですね。

【部会長】

今頃の文科省の方針は、アクティブラーニングだとかに結構力を入れ出しているんで、いろいろ地域貢献について学校の方から言い出していますよね。

【事務局】

大学も先生に関しても、今、環境への関与という形での貢献、研究分野、ものづくりの分野でも非常に大学と環境分野に力を入れている所はあります。

【部会長】

さまざまな専門分野があり、専門が変わると環境問題に興味がない分野、世界もありますからね。うちの大学は、環境問題に関してはかなり熱心な方だと思いますけれども、それでも学生の行動を見ると、ごみ捨て方やあるいは卒業した後の行動にはまだまだ「？」という話ですよ。

【部会長】

環境教育をする時に、先ほど分野が違っていると興味がないというお話がありましたけれども、ESDや国連のSDGs、持続可能な開発。その切り口でいくとかなりの分野が網羅されて、関係のない所はほとんどないです。だから、環境教育と言ってしまうと分野が狭まるのですが、実際に社会に出た時に、環境だけで何かを行うことはほとんどなく、何かに伴って環境が含まれている所がありますので、環境教育という言葉自体や、認識をもう少し広げていく必要が

あると思います。

【部会長】

私もそこがすごく大事だと思います。しばらく前までは、環境教育、環境保全と言うと社会全体から見ると後ろ向きといったイメージで捉えられるかなと懸念していましたが、E S Dが出てきて、いい環境で元気な子供を育てるとか、生きる力を持った若者を育てなければならないとか、これからは国際的な視野も必要だということでもいいと思います。ただ、環境政策の方で何でもかんでも我々がやるということだと反発を買うこともあるでしょうから、注意が必要だと思います。私の考え方、感じ方というのは、環境倫理とか、自然倫理、自然共生のあり方だとか、そういうところは道德なども絡んできます。だから、環境倫理という切り口があってもいいかと思っています。

【部会長】

高校生ぐらいまでは、まだ社会で自分が何をすることがはっきりしていない子もたくさんいると思います。生活の中で環境について考えるということは、消費者の取り組みに重なると思います。その消費者教育という意味で環境を絡めた内容というのは、どの程度現場の方で入っているのですか。もしご存じでしたら分かる範囲で教えてください。家庭科か生活、総合学習、そのあたりかなと思うのですが。

【部会長】

物を消費しないと経済が活性化しないので、消費者に物を大切にしないといけないと言っていたら効果がない。そういう意味では、これはすごく難しい話だと思います。小さい子供の頃からしっかり頭に入れてもらうということがすごく大事だと思います。

【部会長】

今まで、環境教育は、見える範囲で環境に配慮するということは当然ありましたが、見ない所で何が起きているかということもはっきりさせなければいけない。そこはライフサイクルシンキングという考え方があると思いますけれど、そのあたりを小学生ぐらいから教えていく必要があると思います。

【部会長】

見えない範囲といたら、紙の消費が熱帯雨林を破壊していることは、見えませんよね。

【部会長】

考え方として、そうした所まで思いが至るような教育が必要かと思います。

【部会長】

学校の先生に直接議論する機会があれば一番効率的ですが、学校に入っていく地域の人にそういうセンスを持ってもらうということもあると思います。先生の研修というのは、環境教育の担当が各学校にいて、集われるというイメージですか。最近、表面的な環境問題が鎮静化しているので、わざわざ環境学習担当を設けるというのは少なくなっている気がします。

【事務局】

大規模校は、一人ずつ置くことができますが、地域の小規模校は人数が少ないので多分いないのでは。先程の代表の7、8人が重点的に環境問題に取り組み、副読本を作成されたり、授業の組み立てを考えられたり、ESDの研究もだと思います。白石小学校がエコリーダースクールの指定を受けて、試験的に実施して全校に広めるといった活動をしていると聞いています。

【部会長】

山口市で7、8人ということですか。

【事務局】

そうです。代表校で、この当時は白石小学校の校長が代表で、山大付属の先生も入られていました。算数の研究科や美術の研究科、先生たちの教科ごとの研究科があって、その中の一つに環境があるのだと思います。これはどこの教育委員会も同じだと思いますけれども、そこでの活動で差が出てくると思います。

【部会長】

それは全校ではなくても、一部の熱心な先生にやってもらってもいいですね。

【部会長】

では、社会教育はどういう感じですか。

【事務局】

環境学習講座用のメニューがあります。社会教育の一般向けの。こちらで主催するのではなく、依頼を受けて開くという形です。学童保育等からの依頼が多いです。

【部会長】

出前講座ですね。その出前講座は環境政策で予算化しているのですか。

【事務局】

はい、地球温暖化地域対策協議会へ委託しております。

【事務局】

無償ボランティアでは、やまぐち路傍塾という市民の皆さんが力を発揮していただき、学校教育、生涯学習、社会教育活動の支援を行うものがあります。それと、こちらの有償ボランティアを環境講座として取りまとめたのですけれども、スタートが有償と無償で始まっているので、両方に登録されている方もいらっしゃると思いますけれど。

【部会長】

それは統一された方がいいですね。

【事務局】

ボランティアの方は、特に教育をすることを求められている方もいれば、見守りということを求められることもあります。有償のボランティアの方は、1つのプログラムに時間をかけて準備をして、当日の環境教育やアンケート、その準備代を含めて有償になっています。

【部会長】

その辺のシステムを強化することは、意外に大事かもしれません。

【事務局】

環境学習講座も、子供だけでなく、本来、大人の方にも受けていただきたいと思っていますが、年に1、2回ぐらいだったと思います。問い合わせは何回かありましたけれど。

【部会長】

結構なプログラムがありますね。そういう意味では、全体的には結構進んでいますね。枠組みは既にできていると考えていいですが、一般の人はあまり受けないということですね。

【部会長】

前回は何回ぐらい開催したのですか。

【事務局】

27年度の実績が2,322人です。

【部会長】

全般的には、さほど心配要らないというか、先進的に取り組みを進めておられます。先程言ったように、森・川・海といった自然環境を見せるということが大事だと思います。恵まれている家庭の子供は心配要らないと思いますが、ほったらかされている子供たちもいますから、そういう子にもそういう経験をさせることが大事だと思います。

【部会長】

今、そういった子供たちの学習支援とか、まちづくりをしている団体へアプローチすることはできると思います。

【事務局】

何の講座でも、そうですね講座に来られる方は意識の高い方ですので、そうでない方へのアウトリーチに課題があります。環境に関するアンケート調査を行うのですが、回収すると、分別意識の高い方が回答されるので、回答されていない方への配慮しながら進めないといけません。

【部会長】

ごみのポイ捨てなんか、信じられないほど捨てますよね。春休みとかに入るとコンビニで買っていろいろ食べた後、ぽいと捨てたり、カップがぽんと置いてあるなど、てきめんが増えますよ。そういうの事をする人をなくしないと、本当の意味の環境啓発にならないと思います。次の協働についてですが、最近、すごく大事なキーワードになっています。

【事務局】

ここで教育委員会の者は退席させていただきます。

【部会長】

ありがとうございました。

【教育委員会】

すみません、先ほど高校、大学生対象にどう環境教育を継続させていくかという視点がありましたが、私どもが思ったのが、やはり幼稚園、保育園の遊びの中で教育をしている関係から、環境と自然に結びついている気がします。どう事業計画に落とし込むかは難しい面がありますけれど、幼児に対して環境基

本計画の中でどういう視点が当てられるのかは、これからの検討課題かと思えます。例えば、名田島幼稚園という南部の幼稚園でしたら、海も川もあります。山の方の小鯖幼稚園でしたら、山があり、秋にはどんぐりなどの木の実をとったり、自然に環境と結びついた保育をしていますので、幼児期からの環境教育をこれからの課題として我々も考えていく必要があると思っています。

【部会長】

幼稚園の生徒は、小学校の生徒の何十%ぐらいを占めているんですか。100%ですか。

【教育委員会】

今、99%以上が幼児教育を受けておりますので、ほぼ小学校に接続する形でつながっております。

【部会長】

そうですね。お父さん、お母さんは今更変えられませんが、素直な幼児の段階で。

【教育委員会】

すみません、ありがとうございました。

【事務局】

ぜひ、教育基本計画の方にもお願いします。

(教育委員会退室)

【部会長】

では、協働による環境保全活動というのは、後の進捗指標とも関係すると思いますが、具体的にイメージした協働による環境保全活動はどのようなものか。

【事務局】

協働というので、市の地球温暖化対策地域協議会の今村代表もいらっしゃいます。年間を通じていろいろな啓発事業を組み立てていますが、企業と、市民の方と、環境団体と行政がみんなで活動を広げていく研究が中心になると思います。その他にも協働として、衛生分野で全市に自治会を母体とした環境保全の協議会もあります。自治会活動の中で環境に活動されている団体、地球温暖化対策に関しては地球温暖化対策地域協議会、資源循環に関しては、リサイクル

ルプラザを中心とした資源化にスポットを当てたエコ倶楽部があり、自分たちで事務局も持っている自立した団体です。市民活動の大きな団体は、その3つだと思います。あとは小さな植樹による緑化を手がけられているところや、ホテルを守る会という形でのそれぞれの自然環境を守る場所、榎野川流域を森・川・海の保全団体等です。

【部会長】

いわゆる里山づくりや里海づくり、環境保全の活動をイメージしているのですよね。

【事務局】

全部ではないです。自然環境と地球温暖化と資源循環とかを、市民と行政と一緒にやってそれぞれが主体になってやっている活動というのは結構ありますし、別に事業者というのもあります。

【部会長】

山口市には、里山づくり、里海づくりに積極的に動いてほしいと願っています。里山づくりを考えた時に、公有林、山口市や県が持っている所はいいのですが、私有林で個人所有のケースもあれば、共同で山を持っているケースもあり、ともに高齢者問題で維持管理できないという話が出てきています。その山の所有者である市民に「努力しろ」と言われても、市民としては何もできないという話があるのではないかと思います。そこで行政的な支援策が作れないものではないでしょうか。

【部会長】

どこでも同じような問題を抱えていますね。この前、周南のトクナガさんの話を聞きましたが、山を持っておられます。自伐林業をしていけば補助金を含めて何とかやっていると話をされていて、面積が限られるのでボランティアでは無理ですと言われていました。ここは社会経済システムを少しずつ変えていかなければいけない問題ではないでしょうか。

【事務局】

せめて森林組合に加入されて、活動されているといいのですが、権利関係が複雑で境界もわからないような山がたくさんあるとき聞きます。

【部会長】

きちんと登記されていればいいのですが、相続がきちんとできていなくて、所有関係が分からなくなる山もたくさんありますよね。

【事務局】

バイオマス関係でエネルギー源になるということで、資源というか、お金になる側面もありますが、保安的な意味合いで手を入れるのがぎりぎりぐらいで、実際にバイオマスのチップの材料として、権利関係の分からないところに手を出すのはできないということだと思います。市有林の関係については、本伐期を迎えている木があるということで、林業の方にも力を入れて、切り出しとチップ化ということで、願成就温泉というのが道の駅にありますが、その温泉にチップボイラーを導入して、端材なども使っていこうと動き出している状況です。

【部会長】

トクナガさんが、少し意外なことを言われていて、森林組合に頼んでいると補助金が森林組合に行って、所有主には入りませんよね。自伐というのは、所有者が自らやるという意味合いの自伐をすればいいですよ。補助金が80%ぐらいになるらしいです。もちろん今のペレットなんかの間伐材を搬出してという枠組みの話でした。

【事務局】

最近はいろいろな取り組みをしていて、木を持ってきたらお金を支払ったり、間伐して山に放置しているような木材を未利用産材といい、自分で森林組合に持ち込めば、ある程度のお金をという形で。

【事務局】

本伐期を迎えるということで、いろいろな取り組みを一生懸命やっています。全体的に、先ほど申し上げた活動についても、盛り上がってから年数がたったのか、いずれも高齢化していて、次の世代の若い人たちが入ってきていないという課題を抱えているように感じます。植林した時には若かったはずですけど、それから10年、20年と経って。若い人が入ってきてなくて、その広がりというところを考えないといけないかなと。

【部会長】

若い人の関心が少しずつ向いてきているのは事実で、若い人が入ってくると違うよね。地域おこし協力隊といった制度もありますよね。

【事務局】

今、エコ倶楽部さんの活動は非常にうまくいっています。その裾野を広げて、市民を巻き込む、市民が活動するようなものが出てくるといいと思っています

ます。

【部会長】

昔と違って、奥さん方も働いているし、本当に若い人は余裕がないですよ。私たちのNPOは、70歳後半になってもなかなかやめられないね。

【事務局】

何か市民を巻き込む活動をしなが、新しい会員を引きいれないと、会そのものが危ういところがたくさんあります。

【部会長】

会員の維持がなかなか大変です。山口市さんは比較的若い人が関わっていると思いますけれども。

【事務局】

あと、建物、建築関係でも、建築士さんたちが、いろいろな環境に配慮した取り組みや勉強会を行って、建築士会でもそういった活動をするという形でですね。

【部会長】

建物の環境への配慮というのは、全国的な国の制度を含めて守らないと、建築士としていい仕事ができないという時代になりつつあります。

【事務局】

そういった方向性を示されているような企業などは、横の連携でも推進していただけるかと思います。

【部会長】

自転車利用の促進のグループはないのですか。

【事務局】

温暖化とめるっちゃの中で今やっています。

【部会長】

そういうのも是非。思うに、自然共生に熱心な人が平気で自動車に乗るという傾向があります。自然共生で里山に頻繁に行こうと思ったら、車に乗らないと行けない。

【事務局】

そうですね。干潟再生もすごくたくさんの方が集まります。

【事務局】

公共交通がうまく使えるように連結できればいいですけども。そこは課題かもしれません。

【事務局】

市でも、運輸部門のCO₂削減は市民の取り組みとして非常に大事なので、来年度はそういった自転車の乗り換えを促進する事業をやる予定です。

【部会長】

進捗指標としては、EMSの取り組みの数はそこそこ考えられるけれど、抜本的な社会・経済の仕組みは市のレベルではどうしようもないものが多いから難しいですね。簡単に変えられません。団塊の世代の人は、なかなか環境ボランティアには協力してくれない傾向がありますよね。それだけ生活に余裕がなくなっているのかなと思います。少し休みましょう。

(休 憩)

【部会長】

それでは、再開しましょう。進捗指標は、予定では間を置いて計画案を出されてから議論するということでした。大事な所だから、どのような進捗指標があるかについても当然議論しておかなければいけない。榎野川の取り組みでは、参加者に山口市外の人もいて、活動を維持できるか、協働の取り組みとして自立できるかということです。その時に、干潟だけに絞るのか、流域全体の活動にするのか。象徴的に干潟での活動が中心ですが、流域全体へ関連していますので、それを重点項目に取り上げ、榎野川の環境保全に係る取り組みへの参加者数みたいな感じで。また、環境啓発などいろいろある中で、総合的な指標といいますか、客観的、総合的指標ですね。後はアンケートで主観を聞いても、聞き方によってはあやふやな所もありますし、どれだけ進捗しているのかわからないといけないので、そういうことも考えていただければありがたいです。

【部会長】

川を中心に考えるのは1つのあり方ですね。また、合併した関係で、阿東も徳地もありますから、環境を考えた時に、川を材料にして他市と連携していくとか。

【部会長】

すごく大事なことだと思います。下関も地域が多様ですが、どうしても主に旧市街のことを考えがちです。我々の所はどうなんだという不満がほかの旧町部から出てきましたので、それには配慮していました。そういう視点も十分に盛り込むといった議論が十分できてないと思います。

【部会長】

何で、里川という見方がないのですかね。

【部会長】

ありますけれども、あんまり聞かないです。環境省は、里山、里地、里海と言っていますね。里海は国際的にも里山に準じた形で認められ出していますよね。でも、榎野川の河口もどんどん漁協が力をなくしていますからね。

【部会長】

網を張れば、アサリの復活はあり得ないのでしょうか。

【部会長】

もう少し積極的に栄養を補給することも考えたらいいと思います。この会議でも、し尿処理場できれいにし過ぎではないかと言いました。下水処理場の放流水にある程度の栄養塩を残した形、鉄が不足するなら、少し鉄をまくという対策を考えてみると少しは違うかもしれません。里山も里海も同じで、いつもそこで漁をしている人がいないと維持できません。「宇部市との連携の可能性など」と書いてありますが、実際は宇部市との連携はさほどないですよ。むしろ山口市内の他流域が大事かもしれません。

【事務局】

宇部市とは工業団地を一緒に持っている関係で、宇部市長さんから直々に、テクノ企業団地の環境の取り組みができないかというお話をいただいています。具体的には、ごみの共同収集や緑化などの取り組みです。

【部会長】

ごみ収集というのはどういうことですか。

【事務局】

エリアが一緒なので、1カ所でリサイクルの関連とか、事業所から出る資源物を一緒に収集できたらいいという。今は、それぞれの会社がそれぞれで収集していますので。

【部会長】

市が絡むことで合理化できる可能性があるのならば考えてもいいかもしれません。今、アースクリエイティブという会社が積極的に色々なことをやっています、今年度は小さいプラントで食品ごみのバイオガス化の実証実験を始めるようです。でも、それは重点項目ではないような気がします。

【部会長】

食品に関連しては、食品ロスは当然入れないといけません。それから、食品の消費者教育です。

【事務局】

再生可能エネルギーの利活用もいいかなと思います。

【部会長】

光市かどこかが、地区の防犯灯に再エネを使っていました。

【部会長】

市ができるレベルでの仕組みづくりという意味合いですね。消費者教育を主にやる団体、エコクラブでできるのですか。

【事務局】

食品ロスの関係には多少取り組んでいます。それから、吉富さんがエコな買い物の仕方とか、エコな料理、エコクッキングの仕方とか、そういうことをやってらっしゃいます。

【部会長】

今の環境基本計画の中には、環境に優しい社会・経済という話の中で、ISOやエコアクションの記載がありますが。

【部会長】

それは継続されると思いますよ。

【部会長】

それは目標値を超える感じですか。

【事務局】

ISOに関しては、現在の認証取得数はあるのですが、昨年、規格が改正され、新しい規格をとり直す体力のある企業がないので激減するのではない

かと危惧しています。

【部会長】

企業はメリットがあるかないかで判断しますから、そういう動きになるかもしれません。環境のためというより、利益を上げるために取得されている企業もあるでしょうから。

【部会長】

山口市は他市と比較して優遇措置が低いという傾向があるのですか。

【事務局】

今、通常の入札の条件には入っていませんが、総合評価方式やプロポーザルなどで随意契約を行う場合には点数化して、E Aに準じていたら何点、I S Oだったら何点という形で入れてはいます。

【部会長】

廃棄物処理業者は結構取得されている企業が多いですね。国際的な取り組みというのは、宇部市は活発にやっているけど、山口の場合は重点施策として何か考えられていますか。観光かな。山口県の国際交流協会とか交流はあるのですか。それから、留学生が多いですね。

【事務局】

今の基本計画は、姉妹都市とか友好都市との情報交換。後は清掃工場やリサイクルプラザの見学の受け入れ等が年に数回はあります。

【部会長】

下関や萩、長門でしたら漂流ごみの問題などもありますけど、山口は比較的不是ですね。

【事務局】

瀬戸内の漂流ごみはありますけれども、国際問題ではありませんので。

【部会長】

観光客のマナーアップ、まちをきれいにして、魅力を上げて観光客を増やすとか、それぐらいかな。

【部会長】

京都市でしたら国際会議を開催していますね。

【事務局】

京都議定書のまちですからね。

【部会長】

指標も機能していないものは何かに変えていく事が必要です。近隣市町と連携して環境保全に取り組んだ件数はゼロで推移していますし。広域連携や市域内の流域間連携に切り替えた方がいいとおもいます。同じ市なのに、何で旧山口市内ばかりと思われてもいけませんから。

【部会長】

広域連携に関する県から市に対する働きかけというのはあるのですか。

【事務局】

国からは、地球温暖化対策実行計画の地域編を協働で策定すると補助金が出るということがあります。CO₂の排出量を協働で削減する、県ほどではないけれども、ブロックで策定したらというのはあります。

【部会長】

榎野川の取り組みは。

【事務局】

県は流域を連携させるということで、最初は榎野川で、次に島田川をと県内の全河川に増やすという構想でいらっしゃいます。

【部会長】

今回は、重点プロジェクトをあまり議論していません。前回、4つの項目について1つずつ、いいネーミングで挙げてもらっているの、1つぐらい目立つもの、象徴的なものを取り上げた方がいいかと思います。市民に対するアピールだけではなくて、市庁舎の中でも、重点として進めますよという理解がないとあまり意味がないだろうし。

【事務局】

これから全体の組み立てを検討させていただきますが、総合計画の方の環境面の位置づけと環境基本計画上の構えとどういいますか、整合性をとりながら進めようと思っております。その枠組みについて、バランスを見てもう少し整理した上で、今後10年のうちにプロジェクトとして上げるものを精査しておこうと思っております。

【事務局】

今、それぞれの分野でこれは重要だと思われることがあれば、この場で言うていただけると。そのとおりのネーミングにならないかもしれませんが、その辺は意をくみます。また、欠席の委員さんにも、それぞれの分野で、これが重要だというものをお聞きし、検討していきたいと思います。まずは自然共生の所ですが、総合推進と重なっても構いませんので。

【事務局】

今日の資料の2で、基本事項の確認という資料をつけています。こちらは仮置きで枠をお示ししておりますが、低炭素、自然共生、循環型社会の形成と総合推進というカテゴリーで、国の枠組みを市に当てはめています。これを見ていただいて、この枠でこの辺が足りていないというのがあればということです。

【部会長】

前は、4つの重点プロジェクトの大枠があり、それぞれに2つありました。前回は踏襲するというか、1つでは、個人差がありますから。

【事務局】

絞られなくても結構です。それぞれの専門分野で、ここは大事だということを書いていただければ、それを研究していきたいと思います。

【部会長】

私は、現状の外来生物から生態系を守るやペットの適正な飼育は、重点ではない気がします。「生き物バンザイ」となっていますので、そういう項目になると思います。環境計画で取り上げる項目は全部重要ですが、特に重要なものを抽出するので、自然共生では森・川・海の環境を正常にしましょうというのはすごく大事だと思います。外来生物が、市全域に脅威を与えていて、市民全部の関心が深いのであればいいかもしれません。野良猫対策も、市民の関心は意外と高いですが、そのものの考え方が、人間本位過ぎないかという気は私はしなくもないですが。

【事務局】

もう少し、自然共生のプロジェクトというか、生活環境というのが市の所管事務としてはあるという中で、ペットというのが生活環境の保全の点で近年、問題になっているので現計画上はこうなっています。もう少し自然共生の部分が合った上でこれということかなとは思っています。

【部会長】

猫や犬を飼っていない家庭も多いですね。野良猫がちらちら歩いていた
ら、子供も幾らか接触する機会があるわけで、それでも共生しないといけない
ということになるのでしょうか。放し飼いにしたらいけない、犬を散歩させる
ときには必ずリードをしなさいとか、大分徹底してきましたよね。それから、
狂犬病の関係か分かりませんが、野良犬はいなくなりました。そういう事を徹
底するのが本当に人間と自然との関係を正常にするのかと言われると、私は少
し疑問を持ちます。猫に悪いことをされて、「くそ！」と思うというのも1つ
の自然とのつき合いですね。人間本位に考えてあんまり清潔にというので
は、本当に逞しい人間は育たないのではないかと思ったりします。この2つだ
けでなく、もっと大事なことがあるのではないかと思います。

【事務局】

特に猫についてですが、前回は3年間の計画ということで、29年度までの
事業にしており、制度も設けましたし、補助事業も始めました。補助金は64
件の交付があって、問い合わせもその3倍もあるということで成果を上げてい
ますから、次の計画へ持ち越すのではなく、一定の成果を上げて運用に入っ
たと考えています。

【部会長】

軌道に乗せるまでという重点目標ね。

【事務局】

無駄な命の殺傷につながらないようにしていこうということは大事なこと
です。自然共生については、森・川・海とかにつながっている環境での保全を
市民の活動の中でやっていくことが重点だということによろしいですね。

【部会長】

まずは、市民の理解がないと社会の仕組みもできないでしょうね。難しい
ね。

【部会長】

ここに温暖化の気候変動への適応策という部分が災害リスク対策として書
かれていますが、ここは重点目標に挙げた方がいい気がします。

【事務局】

防災とか、そのあたりになります。市で言うとハザードマップとか住民避難
の面です。

【部会長】

ここの部分を環境基本計画の中で重点プロジェクトに挙げ、環境部門が中心になって推進すべきか議論が要るかと思います。

【部会長】

この危機管理、防災の所は、環境政策が中心になっているのですね。

【事務局】

防災は市民の安全を守る観点ですけれども、もう1つ、環境リスクとして自然が破壊されるという部分が1つです。気候変動による環境リスクということで、自然破壊が起きる山が崩れ、川あふれる、といったことがないようにという側面もあります。気候変動のリスクの原因となっている地球温暖化対策の関係大きな要因としてあります。起こるということ、地球温暖化が進むという警告を出して、例えば、作る農作物の種類を変えていくとか、熱中症の対策を強化するとか、そういった多方面の警告は出していかなければいけないのかなと思っています。温暖化の防止、そちらの重点に挙げた方がいいかもしれません。

【部会長】

東北の海岸のように、あれだけ高い防波堤をつくって守らないといけないところは、かえって環境にとってはマイナスになることがありますよね。やっぱり人間というのは時々そういう痛い目に遭って自然の厳しさを学ぶというところも。

【事務局】

環境リスクへの備えは適応策ということで、市としてできる事は防災になります。災害が起きることを想定した、避難所のような機能を交流センター等に付与することが想定されています。

【部会長】

太陽光発電をつけるとか。

【事務局】

蓄電池も一緒につけていくとかですね。

【部会長】

その部分が非常に遅れているということであれば、重点プロジェクトに入れてもいいのではないのでしょうか。

【事務局】

まちの灯台をつくろうと、まちなかで車への充電、蓄電関係がございすけれども、もし災害が起きた時には、そこがまちの灯台になるように広めて、いざというときには周りの人が避難してきていいというような防災拠点を広めていきたいと要望しましたが、今さら市がイニシアチブをとってやらなくてもということになりましたけれども。

【事務局】

それと、災害も生活環境の保全という面があつて、衛生面、トイレのことも考えられているかもしれません。

【部会長】

災害時の対応というか、環境対策かな、そういう切り口の方がいいようですね。

【事務局】

資源循環の部分が、少し話足りなかったと思うのですが、資源循環の環境目標3の所が少し寂しかったような記憶がございす。

【部会長】

ごみの減量化は間違いなくやっていかないといけないですね。

【部会長】

食品ごみを減らすのはすごく大事です。それから、現状では市民1人当たりのごみの排出量が1キロを少し超えているとか。私が言ったかもしれませんが、事業系を入れない段階での家庭ごみについてもう少しきちんと分析して減らす。そのためには食べ物ごみを減らさないといけないですよ。食品ロスという事業系廃棄物。

【部会長】

まあ、家庭からも半分ありますから両方やっていかないとけません。

【部会長】

では、その両方が見えるような形で設定した方がいいですね。事業系が増えたから何だとかなくてもいけないし。

【部会長】

そうですね。両方あると随分違います。

【事務局】

指標が対象ごとにあつた方が分かり易いということですね。

【部会長】

事業系と家庭系とわかるような形で。

【部会長】

食品ごみを減らすというのは、すごく基本的な問題だから、ある程度、フォーカスを当てた方がいいかと思いますね。それから、小型家電のリサイクルも大事ですが、軌道に乗っているのでしょうか。

【事務局】

小型家電については、各地区の交流センターと拠点回収の両方で行っているのかかなり先進的な取り組みと思います。

【部会長】

ああ、家庭もやっていますか。

【事務局】

家庭から毎月出す日を設けています。

【部会長】

分別で出して、それは進んでいますね。

【事務局】

それとは別に小さいものやパソコンの収集も始めています。希少金属の回収をやっています。

【部会長】

それはいいですね。

【事務局】

ある程度、定着していると思います。

【部会長】

では、食品ロスを減らすことと、ごみの全体量を減らすとか、分けてもいいのかもしれないですね。

【部会長】

達成した話でも継続していかなければならないこともあります。継続すべきだということもどこかで触れないと、達成したからといって重点目標から外れて、そしたら途端に悪くなったでは困ります。

【部会長】

山口市はこれだけ進んでいるということで誇りに思う市民もおられるかもしれませんが。いいかげんに捨てたら環境汚染につながるけれど、分けて捨てたら資源になるという象徴的なものですね。小型家電に限らなくてもいいですけど。

【部会長】

ごみの集め方については、山口市は全国的に見てもかなり進んでいます。これは維持していく必要があると思います。

【部会長】

でも、リサイクル率は30%ぐらいでなかなか上がりませんね。食品ごみ、生ごみの関係なんかはね。

【部会長】

ただ、これもアパート系が増えると途端に壊れる可能性があるんです。

【部会長】

そういうのは、事業系で入ってくるからね。

【事務局】

市の清掃工場に入ってこないものは、今、分析できていません。だから、事業所からの排出するものについては産廃扱です。

【事務局】

スーパーでペットボトルなどを回収していますが、その辺というのは全く見えていません。市の取り組みとしてのリサイクル率という場合、事業者さんが頑張られることで下がるのかという話がありますし、この指標が妥当なのかということがあるのではないかと考えています。

【事務局】

リサイクル率になると、容器の軽量化が進んでいて、缶やペットボトルが薄くなっており、重量で計算しているのではなく、市、県、国が同じよう重さだ

けで計っているのですが、だんだん資源ごみが、容器が軽くなってきています。生ごみの方は変わらないのに、資源化の方がだんだん軽くなっていて、実はリサイクル率が指標としてふさわしくなくなってきているのではないかと、事務局の方では懸念しています。むしろ、ごみの少量化というのは最終埋め立て率、最終的には埋め立てが地球に負荷を与えている訳ですから、そこをはかるのが一番いいのではないかと考えています。

【部会長】

1人当たりの埋め立て量とかね。それはいい考えかもしれません。

【事務局】

リサイクル率に関しては、サーマルリサイクルも含まれているということで、含まれたリサイクル率で全体を進行管理することについて、サーマルリサイクルがどの程度あるという話と、それぞれの各主体でどのようにリサイクルに取り組んでいるのかがわかる指標を検討したいと考えています。

【事務局】

今から基幹改良の工事を行い、発電機の更新をします。そうすると、その期間はゼロになります。新しいものでは、現在の発電機の倍になるということで、稼働するとぐっと上がるというようにリサイクル率が変動します。工場の稼働率で大きく変動することの影響が大き過ぎて、サーマルリサイクルを含めたりサイクル率だけではかるのは危険で進行管理指標としてはふさわしくない面があるのではないかと感じています。

【部会長】

環境目標1が難題ですね。ふるさとエネルギー創生作戦はエネルギーの地産地消ですね。エコライフは具体的には何を指すのですか。

【事務局】

市の方でエコライフの取り組みということで重点項目を何点か挙げて、1年間を通じて推進しています。その中でも特にここ3年間はクールシェアということで、1人の人が各部屋で冷房を使用するのに対して、2人が1部屋に集まると2分の1、まちなかの冷房が効いているところに10人集まれば10分の1になるという取り組みをクールシェア、ウォームシェアということで挙げています。これは今までは、「まちに集まりましょう」と声をかけるだけだったのですが、昨年度ぐらいから、街づくり山口という中心市街地活性化を目的にしている第三セクターと連携して、いろいろなお店でクールシェアの割引を行い広がりを持たせたいと考えています。これは継続してやっていこうと思って

います。

【部会長】

これにクールチョイスを入れますか。環境省はクールチョイスを推しています。

【事務局】

夏場はいいですけども、冬場にクールチョイスというところと住民の理解が……。

【部会長】

賢いという意味で使われているのですけどね。

【部会長】

スマートチョイスの方が良かったかと思うんですけどね。

【事務局】

最近、コンビニにもついていますね、クールチョイスが。

【部会長】

私は、自転車、現役の人に比べると随分時間がある方ではあるけど、自転車は便利ですよ。昔の自転車比べると、ママチャリでもアルミのやつだと軽くて、快適ですよ。安易に車に乗り過ぎていると思います。もちろん安ければ乗るしね。

【事務局】

環境省はスマート・ムーブということで公共交通とか徒歩、自転車を推進しています。

【部会長】

それは重点に上げるべきではないでしょうか。宇部から県庁に行く場合でも、バスがあります。時間に合わせると意外と楽です。私は最近、下関はJRで行くのですが、資料を読めますよ。車だと運転しないといけないから無理ですよ。総合的に見たらどうなのかわかりませんよね。

【事務局】

今、総合計画の方で市内でも、交通政策というか、都市政策、都市機能とかの話がされています。中間発表に行ってみたところでは、市内は渋滞が多くバ

スも巻き込まれてしまうということで、専用レーンの検討ができないのかということや、自転車についても、自転車の走りやすい道路になっているかということで、自転車道の検討をするようにということが副市長からもありました。

【部会長】

いいですよ。少し早いかなと思うぐらいで、出した方がいいかもしれません。環境目標4の重点は、少し重複もありますが、環境教育は大事です。

【事務局】

幼小中高大、それぞれの年代別の環境教育ですね。

【部会長】

高校、大学、特に大学は自治に任せないといけないと思います。そこまで言う必要はないと思います。

【事務局】

子どもの頃からの環境の倫理観。

【部会長】

幼児教育、幼稚園や小学校の低学年、その辺で大事なことを感じさせるということ。

【事務局】

成長に応じた学習内容の充実。

【部会長】

それが一番基本だと思います。それをどう指標にしてあらわしたらいいかというのを少し考えてもらって、是非、根本的な部分に力を入れていただければ。いわゆるシステム自体は結構整っていますので。山口市は進んでいる方です。その部分をしっかりESD的な魂を入れていくというか。そんなところでいいですかね。今日は休まれている方が多いですから。

【部会長】

29年度は、部会を1回しかやらないのですか。

【事務局】

いえ、もっとございます。まず、年度の早い段階で今日までの分を取りまとめて審議会に報告させていただきます。それから具体的な計画案を作って、何

回か部会の方で審議していただく予定です。

【部会長】

これを見たら、10月ごろになると書いてあるから。

【事務局】

その頃には指標ができていないといけないということです。

【事務局】

組み立てがあって、指標の見直し等も、たたいていく中で、そのあたりで最終的にということです。

【部会長】

恐らく、他の委員の方も今の重点項目の所は変わらないと思うけれども、必要であれば意見を聞いてもらって。

【事務局】

はい、議事録を送付します。

【部会長】

今までの議事録というか、前回の分は送ってもらってないですね。

【事務局】

確認します。これとあわせてお送りして、意見を求めるようにさせていただきます。

【部会長】

それを聞いて安心しました。では、少し時間を超過しましたがけれども、これで終わりたいと思いますね。いいですね。事務からの連絡をお願いします。

【事務局】

今日は活発な意見をありがとうございました。年度末のお忙しい中、お集まりいただき申し訳ありません。これで本年度の部会は全て終了いたしました。4回でいただきましたご意見を、先ほど申し上げましたとおり、取りまとめして、次年度の早い時期に資料をお送りし、コメントをいただくという形になろうかと思えます。今年度はこれで終わりますけれども、次年度も変わらぬご支援、ご協力を賜りますよう、どうぞよろしく願いいたします。どうもありがとうございました。

	【部会長】 ありがとうございました。
会議資料	
問い合わせ先	環境部 環境政策課 環境企画担当 TEL 083-941-2180